

## 事業を通じた地域経済への貢献



### マテリアリティの2019年度目標と実績

○：計画通り △：遅れあり

主な取り組み内容	目指す姿	2019年度目標	指標	2019年度実績	自己評価
雇用	持続的な現地雇用の創出	2018年度並みの規模を維持	雇用実績	タイ、インドネシア、フィリピン3カ国で、現地従業員計1万1千人(非正規雇用を含む)の雇用創出	○
人材育成	地域経済の発展を担う人材の成長支援	2018年度と同じ方針で同水準の育成機会を提供	研修件数、参加者数	代表的な研修 ・現地社員の日本への派遣 ・現地社員に向け業務レベル強化セミナーの実施 ・技能向上に向け「ものづくり教育」研修の実施	○
投資	地域経済の成長を支え、事業拡大ニーズに応じた工場の設備投資の継続実施	設備投資の実施	投資計画の進捗率	・新車関連 ・生産・輸出体制整備 ・本社機能拡充	○
技術移転	電動車やEVインフラの技術・知識の提供による市場の創出支援	・タイKD生産プロジェクトの遂行 ・インドネシアでの完成車販売の開始 ・政府とのコミュニケーションの継続	プロジェクト、活動などの実績	・インドネシア、フィリピン、ベトナムで政府や大学・研究機関との共同研究の実施 ・インドネシアで電動車販売開始 ・タイで電動車のKD(※1)生産プロジェクトの推進 ・フィリピンで2020年度中に電動車販売開始を決定 ・フィリピンで電動ドライブステーションのオープンを決定	○
	工場の競争力向上による地域社会の製造業バリューチェーンの変革	各工場自ら改善のための要因分析を行い、PDCAを回し改善を図る	プラントランキングKPIスコア	アライアンス生産方式(※2)を活用し、工場の品質向上、現場改善推進、生産性向上を推進し、前年度より良化	○
輸出	輸出による外貨獲得を通じた地域経済の成長支援	2018年度実績を上回る輸出台数	輸出台数	2019年度輸出台数 タイ：33万台 インドネシア：6.7万台	○

※1：Knock Downの略で、主要部品を輸入し、現地で組立を行う方式

※2：ルノー・日産・三菱アライアンスの3社共通の生産方式

### 基本的な考え方

三菱自動車は、アセアン地域でモータリゼーションが興る以前より事業を展開し、「地域の発展」が「当社の発展」という思いで地域に寄り添いながら各国と共に成長してきました。

「事業を通じた地域経済への貢献」をマテリアリティの一つに掲げ、「アセアン地域における事業の発展を通じ、雇用・人材育成・投資・技術移転・輸出による地域経済への貢献を果たす」ことを目標として事業活動に取り組んでいます(※3)。

アセアンのお客様に求められる製品の提供により、今後の事業拡大とともに、アセアン地域固有の社会ニーズに応え

る形で、環境と社会貢献の分野でも当社独自の技術・サービスを生かして取り組んでいきます。(※4)

※3：「マテリアリティの特定」の詳細は、P11をご参照ください。

※4：具体的な事例は、P76-78をご参照ください。



## マネジメント体制

アセアン地域でのマテリアリティへの取り組みは、活動の計画策定および遂行は現地子会社が担い、管理監督機能を果たす三菱自動車の営業部門が責任部門として、取り組みを推進しています。生産拠点を持つタイ、インドネシア、フィリピンの3カ国については、半年に一度、現地子会社に取り組みの進捗率や実績を確認し、サステナビリティ委員会を通じて経営層に報告を行っています。

## 雇用

事業を持続的成長に導き、地域の雇用を創出することは三菱自動車の使命と考えています。生産拠点のあるタイ、フィリピン、インドネシア3カ国における2019年度従業員数は、1万1千人と2018年度の規模を維持しました。2020年度も事業計画に沿って雇用の創出に努めます。

## 人材育成

当社での就業経験を通じ、専門的な知見や技能を培うとともに地域経済の発展を担う人材への成長支援を行います。各国それぞれの状況に応じた研修やOJT教育を提供するほか、2019年度は、タイから5人の現地社員を日本に派遣し、グローバルに活躍できる現地社員の育成を行いました。インドネシアでは、300人以上の現地社員にそれぞれの職務レベルに合わせた業務スキルを強化する研修を実施しました。フィリピンでは、生産部門の技能向上を意図した「ものづくり教育」研修を300人以上の社員が受講し、専門性を高めています。2020年度も継続して、各国の状況に応じた研修やOJT教育を行う予定です。

## 投資

地域経済の成長を支えるとともに、事業拡大のニーズに応えるべく工場の設備投資を積極的に実施しています。インドネシアで生産する小型MPV『エクспанダー』は、インドネシア国内および輸出先の需要増加を受け、2019年度は設備拡張により工場全体の生産能力を16万台から22万台に増強しました。海外最大の生産拠点であるタイでは、2019年度にSUV『パジェロスポーツ』の新型車を投入するなどグローバル車種の継続的な刷新を図るとともに、新塗装工場の建設など、生産体制の再構築を進めています。また、フィリピンでは、商用バン『L300』の輸出を決定し、生産設備の整備を進めています。



## 技術移転

アセアン地域では、環境規制への対応が従来にも増して大きな課題となっています。モビリティの普及、世界的なEVシフトの動向の中、アセアン地域においても電動車の導入が急がれています。三菱自動車の強みである電動車の技術、知見を生かし、各国の電動車普及に係る政府方針立案に寄与すべく、他社に先駆け各国政府・大学・研究機関とともに実証実験を行っています。インドネシアでは2019年度に電動車の完成車の販売を開始しました。タイでは電動車のKD生産を2020年度中に開始・市場投入し、フィリピンでも2020年度以降電動車の販売開始とともに、電動車を活用したV2Hシステム「電動ドライブステーション」を5つのディーラーでオープンすることを決定しました。今後も電動車やEVインフラにかかわる技術・知識の提供を通じて電動車市場の成長に貢献していきます。

また、生産拠点が果たす技術移転として、地域社会の製造業のバリューチェーンに変革をもたらすような工場の競争力の強化に取り組んでいます。具体的には、アライアンス生産方式を導入し、この手法である工場の品質、在庫、コスト、生産性を測るKPIを用いて工場の品質向上、現場改善推進、生産性向上のPDCAを回すことにより、競争力強化を図っています。2019年度のKPIの数値はタイ、フィリピン、インドネシアとも前年より良化し、アライアンス生産方式導入以降2年連続で改善しています。

## 輸出

輸出を通じて、地域経済の持続的な成長を支えています。タイ工場は当社の海外最大の生産拠点で、戦略的な立地を生かし、ピックアップトラック、SUVなど当社の主力車種をアセアン地域のみならずグローバルに輸出しています。タイ国内からの輸出台数は、2019年度33万台と安定した輸出事業を展開しています。インドネシアでは、小型MPV『エクスパンダー』が輸出先でも人気を博し、輸出台数はアセアン地域を中心に6.7万台以上を出荷しました。フィリピンから商用バン『L300』の輸出を開始することを決定しており、今後もアセアン域内での生産の相互補完体制を進めていきます。現地生産の安定的な成長を通じ、雇用の創出や自動車産業の発展など、地域経済に貢献しています。